

## (2) 東北



東北地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

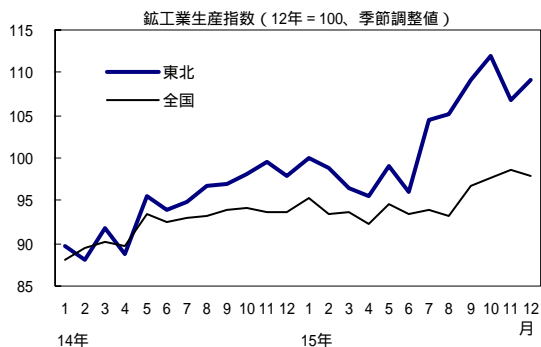
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 11 月）	今回（平成 16 年 2 月）	
個人消費	弱含み	やや弱含み	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

電子部品・デバイス、携帯電話やデジタル家電などに対するおう盛な需要を背景に、液晶素子などの増加により 10 月に大きく増加し、その後も高水準で推移したことから、4 四半期連続の増加となった。食料品・たばこは、10 月にビール・発泡酒などが、12 月は冷凍水産品などが増加したが、総じてみればおおむね横ばいとなった。情報通信機械は、11 月は外部記憶装置などにより減少したが、12 月は携帯電話などにより再び 2 けたの増となったことから、2 四半期連続で増加した。一般機械は、10 月に金型などにより 2 けたの増となったことから、2 四半期連続で増加した。電気機械は、11 月にほぼ横ばいとなった後、12 月に微減となり、四半期ではマイナスに転じた。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

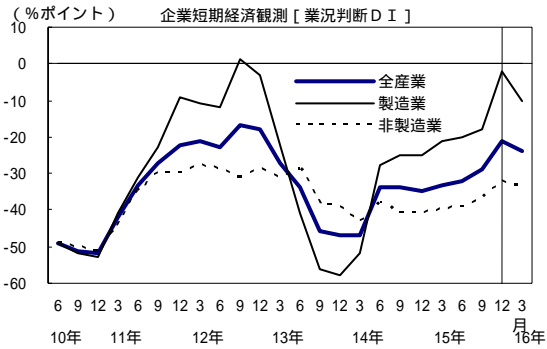
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電子部品・デバイス	19.3	19.7	14.8	25.8	22.8
食料品・たばこ	12.9	4.0	0.5	2.0	14.5
情報通信機械	11.6	20.2	9.4	3.3	2.1
一般機械	8.6	12.5	10.1	5.1	14.0
電気機械	5.8	6.1	0.9	0.4	0.5
鉱工業	100.0	9.6	2.9	5.5	3.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

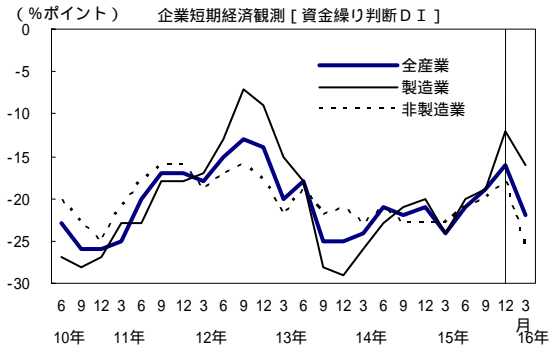
2. 10~12 月期は速報値。

(備考) 平成 15 年 12 月の東北は速報値。

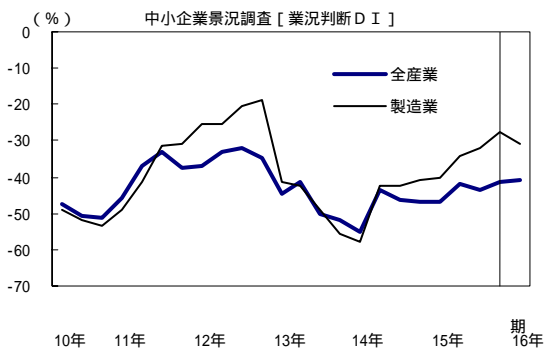
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。  
企業短期経済観測調査 [ 業況判断D I、資金繰り判断D I ] 及び中小企業景況調査 [ 業況判断D I ]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [ 企業動向関連 (現状判断) ]

「相変わらず中国向けと中国からの貨物量は増加しているが、其他地区及びデジタルと衣料品以外の品目は減少している (輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

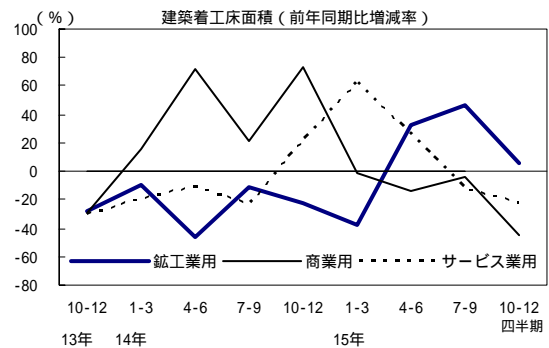
(3) 15年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 (12月調査) ]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	11.6	22.7( 3.4)
製造業	17.8	30.5( 0.4)
非製造業	4.8	16.2( 7.2)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

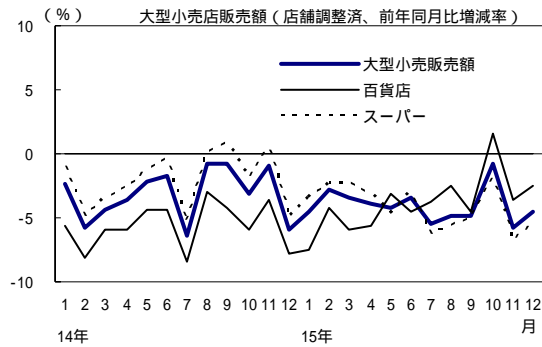
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、10月は主力の衣料品では秋冬物が好調だったことから、36か月ぶりに前年比増加となった。しかし11月は冬物衣料が振るわず再び前年割れとなり、12月も衣料品や飲食料品の不振から、前年を下回って推移した。

スーパーは、主力の飲食料品については、一部に動きがみられたものの、生鮮食品の不振が続き、身の回り品も低調だったことから、前年比で減少を続けた。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「初売り、クリアランスセールと出足が良く、中旬までは健闘していたが、20日以降は厳しくなっている。癒し系やテレビで話題になった商品群は好調に売れている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

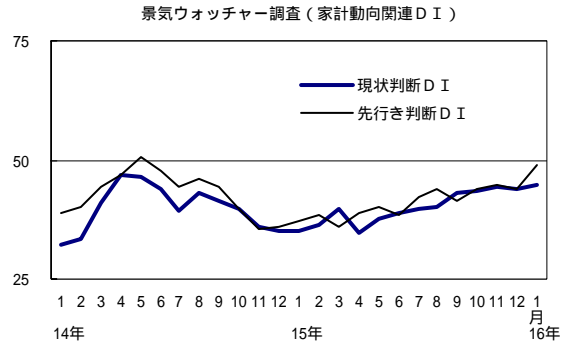
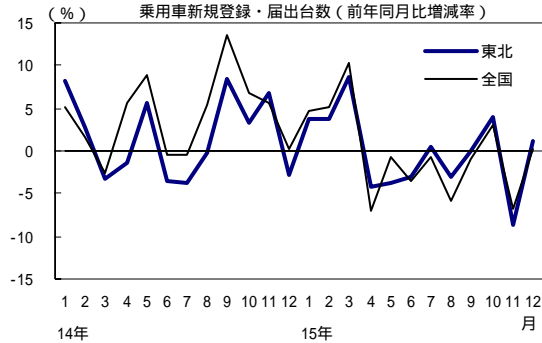


(前年同期比増減率、単位：%)

	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	3.7	3.9	5.1	3.8
百貨店	6.1	4.4	3.6	1.6
スーパー	2.7	3.6	5.6	4.7
乗用車	6.3	3.7	0.6	1.4
景気ウォッチャー	37.1	37.0	40.9	43.9

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家は増加に転じたものの、貸家が引き続き大きく減少していることから、全体では減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

